

令和 7 年度 横川中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

- ・「人権尊重の教育」を基盤とし，学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる，人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（目指す児童像）

- ・思いやりのある子ども（思いやり星）
- ・よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
- ・健康でねばり強い子ども（健康星）
- ・働く喜びを知る子ども（働き星）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

子どもたちが夢を抱き，未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく，愛情と使命感をもって，全力で教育にあたっていく。そして，思いやりがあり，生き生きと学ぶ児童を育成し，児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

楽しい学校とは

- （1）児童にとって，わくわくして登校し，楽しい一日を過ごし，満足して下校できる学校
- （2）教職員にとって，自分のもてる能力を十分に発揮できる，やりがいのある学校
- （3）保護者にとって，安心して子どもを通わせ，積極的・主体的に協力できる学校
- （4）地域にとって，信頼でき，積極的・主体的に協力できる開かれた学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営の適正化

創立 152 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し，児童・地域の実情を踏まえ，学習指導要領に基づき，学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に，地域の教育力の導入を推進し，活気あふれる学校づくりに努める。

（2）教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに，人づくりの使命感に立ち，学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み，自身の資質向上を図り，和と協働を基盤に，教職員一人一人の特性やよさを生かし，児童・保護者と共に学校づくりに努める。

（3）学年・学級経営の充実

児童一人一人の個性等に配慮し，居がいのある学級づくりと，活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

（4）学習指導の充実

児童主体の分かる授業，楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み，基礎・基本の確実な定着を図り，思考力・判断力・表現力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

（5）豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に，様々な体験活動を通して，生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し，心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

（6）児童指導の充実

全教職員の認識を共有し，児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め，児童一人一人に寄り添い，気持ちを受け止める等，共感的理解に基づいた人間関係を確立し，日常のふれあいを通して，基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに，社会性の育成に努める。

（7）健康教育（体力向上，保健教育，食育，安全教育）の充実

児童が健康で安全な生活を送るために必要な資質・能力を高めていけるよう，体力向上，保健教育，食育，安全教育を計画的かつ体系的に推進し，学校の教育活動全体を通じた指導の充実を図る。

○（8）地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし，家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら，充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また，児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた，特色ある学校づくりに努める。

(9) 地域とともに歩む学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者・地域等の信頼関係を深め、地域とともに歩む学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

【横川地域学校園教育ビジョン】

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分・人・地域を大切にし、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2025」に示された基本理念である「とちぎに愛情と誇りをもち 未来を描き、ともに切り拓くことのできる 心豊かでたくましい人を育てます。」を目指し、「とちぎの子どもの基礎・基本」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画」(うつのみやいきいき学校プラン)を基に、その施策の柱である学習指導・児童指導の充実、未来を生き抜く力の育成、情報活用能力の育成、また、地域学校園(小中一貫教育)を生かした学校運営を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科道德、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

心豊かで思いやりがあり、生き生きと学ぶ子どもの育成に努める。

～ 認めて 褒めて 励まして ～

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科 道德」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) 健康教育

体力向上、保健教育、食育、安全教育の指導を充実させ、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童の育成を図る。

(4) 地域と共に歩む学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、校務分掌の平準化をはじめとした、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

○・主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実等)

【学習指導】

見方・考え方を働かせ、学び合う児童の育成」～「深い学び」の視点からの授業改善～

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、上記のテーマで研究に取り組む。

【児童生徒指導】

学校や社会の決まりやマナーを守り、お互いのよさを認め合える児童の育成

- ・道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童を育成

- ・教科指導の充実や、学校行事、児童会活動等の機会を通じた、運動に親しもうとする態度・能力の育成に努める。
- ・自己の健康状態について関心をもち、健康な生活を送るための基本的な生活習慣の育成を図る。
- ・食事の重要性や栄養バランス等、よりよい食生活についての指導を行う。
- ・危険を予測し、自分の命を自分で守り抜く行動力の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 学び星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。 ・児童の問題意識を高める授業の導入や授業展開の工夫 ・宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開 ・話し合い活動や対話的授業の工夫 ② 学校課題「主体的に考え、学び合う児童の育成」を実現するために、教職員の授業力向上の推進を図る。 ・相互に授業を見せ合い、児童の姿から学びを振り返る研修 ・外部指導者による指導助言を得ながら、教員同士が学び合う授業研究会の継続的实施 ③ 学業指導の充実を図る。 ・児童アンケートをもとに、実態に応じた支援を工夫		【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。 - 縦割り班活動・勤労的奉仕活動における異学年交流や体験活動の充実 - 思ちゃんコーナー、思ちゃんカードの積極的な活用 ② 毎日の振り返りや授業を通して、生命や人権を尊重する心、人を思いやる心などを育成する。 - 経験や体験活動等と関連を図り、自分ごととして捉え主体的に考える道徳科授業の展開 - 朝の会や帰りの会等における自他の違いやよさを認め合う場の工夫	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 健康星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 自己のめあてや目標に向かってあきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます個に応じた指導や支援に努める。 - 自主的・主体的にそれぞれの学校行事やイベントに取り組めるようにするため、学校行事や児童会活動、各種検定等で立てた目標を振り返り時には、結果及び過程における自己の姿を振り返らせる。 - 学級活動や児童会活動などにおいて、児童主体の活動を計画・実現することで、取組への満足感や達成感を得られるよう支援する。 ② 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、児童が目標達成に向けて努力したことを称賛する。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 健康星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 児童が健康な生活を送ることができるよう、日常的に指導するとともに学級活動や教科体育における指導の充実を図る。 - 定期健康診断の結果や元気っ子生活習慣の結果を活用し、自分の体に関心をもつとともに、よりよい生活習慣についての意識を高める。 - 学校給食と各教科等の関連を図り、栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ、望ましい食習慣の形成を図る指導の充実。 ② 危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成するために、日常の安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業や生活の振り返り活動を重視する。児童が発揮したよさや努力、協力するよさを自覚できるような自己評価や相互評価の場を設けて、自己存在感の高揚を図る。 ② 教室の思ちゃんカードや学級活動の掲示コーナーを積極的に活用し、児童相互に認め合う場を多く設ける。 ③ 教職員は気付いた児童のよさや姿を共有し合い、進んで声掛けを行うなど認めて褒めて励ます指導に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 外国語活動や外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、英語でのコミュニケーションを図ろうとする活動を積極的に展開する。 ② 授業以外にも、休み時間や給食の時間など、ALT と英語でのやり取りをする機会を設け、児童が英語にふれる機会を多くする。 ③ 日常的に使えるフレーズを用いた掲示物を作り、積極的に使っていくことで、英語に触れる機会を増やしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 総合的な学習の時間や生活科、社会科における地域の学習において、児童が身近な地域や宇都宮市のことについて関心をもつような教材や授業展開の工夫を行う。 ② 給食の「宮っ子ランチ」や地産地消献立に関わる資料作成や放送、給食だよりを通して、宇都宮の歴史や良さを紹介し、関心を高める。 ③ 図書館の宇都宮関連の常設コーナーの充実を図ったり、宇都宮に関連する本を読み聞かせたりする。	【達成状況】 【次年度の方針】

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 学校図書館の環境整備や利用喚起を図る。 ・ 随時蔵書を点検し、図書選定委員会を通じて、児童の希望や学習に必要な図書を計画的に補充する。 ・ 調べ学習等で必要な関連図書を選定したり、南図書館に協力依頼を行ったりして、各学年学級に配置するなど児童が身近に活用できるように工夫する。 ② 児童が一人一台端末に親しみ、適切に活用する能力を育成する。 ・ 授業の中で、一人一台端末等 ICT を活用し協働的な学習場面を工夫する。 ・ ICT 支援員のサポートにより、児童の一人一台端末の有効活用の向上を図る。 ・ 児童の振り返りや学習のまとめなどを一人一台端末で行うなどして、保護者に児童の学びを知らせる工夫をする。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。 ・ 環境教育を教科横断的に捉え、関連した学習や学級活動において、持続可能な社会のためには、児童本人の行動が深く関わっていることに気づかせ、各学級で児童主体の取組を実践する。 ・ 環境委員会で児童が主体となる活動を設け、資源の節約や緑化など環境づくりを推進するとともに、全校に「持続可能な社会」について周知する場を設け、関心を高める。 ② 図書資料の充実を図り、SDGs について、主体的に学べる環境を整える。 ③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や指導計画を作成・活用し、保護者・SC・関係機関と連携しながら、情報の共有や適切な支援を学校全体で共有して行うようにする。 ② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、ユニバーサルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 「いじめをしない、させない、許さない」心を培えるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。 ② いじめに関するアンケートや教育相談を定期的に行い、組織的な対応により早期発見、早期対応に心掛ける。 ③ 児童会を中心とした「いじめゼロ集会」の内容を工夫して行い、思いやりのある行動をする意識を高める。 ④ 保護者には、学年だよりや学校ホームページに、教育相談や集会の様子、道徳や学級活動等で学習したことなどを掲載し、学校の取組を発信していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 主体的に活動する場面や、活躍できる場面を設定したり、子ども達の思いをよく聞き取り気持ちの理解に努めたりすることで、自分の居場所となるような温かい雰囲気学の学級経営に努める。 ② 教室の思ちゃんカードの活用など、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、教職員も認めて褒めて励ます指導に努める。 ③ 教育相談やQ-U調査結果や普段の児童の様子から、不登校の兆候や傾向のある児童の早期発見、支援に関わる校内全体の情報共有を図る。 ④ 不登校傾向の児童のためにサポートルームを活用し、支援担当教員などが対応に当たることで、校内に安心できる場所の確保を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。	① 日常的に児童の見取りを丁寧に行い、児童の話をよく聞き、悩みや困り感に寄り添いながら励ます	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(4) 多様な教育 的ニーズへ の対応の強 化	【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	指導に努める。 ② 職員間で定期的に児童の情報共有を行い、必要な支援を組織的に行う。 ③ 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。 ④ 授業や生活の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことが自覚できるような自己評価や相互評価の場を設ける。	
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 学び星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業のねらいを明確にし、少人数指導やIT、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ② ICT機器を積極的に活用したり教材提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。 ③ 朝の学習の時間などを活用して、漢字・計算をはじめ、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ④ 学習の様子を学校のホームページに掲載し、児童の取組状況などを保護者に発信していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 全ての教職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの能力や専門性を生かしながら、学校の諸課題や運営等に相互に連携・協力しながら取り組む。 ② 校内のOJTを充実させ、チームとしての協働性をより一層高め、若手教員の育成をはじめ、教職員全体の資質向上を目指していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 学年の発達段階に応じて、宿題等でのデジタル機器の活用推進に努める。 ② 行事等の実施後や学期ごとの業務アンケートにおいて、課題や改善案を出し合い、業務の見直しや分散を実行していく。 ③ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、効果的で効率的な業務の改善に努める。 ④ ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、ペーパーレス化等を図りながら、業務の効率化を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 「あいさつ運動」など<u>地域学校 園の取組を各種便り、ホームペー ジ等を通して、積極的に保護者や 地域に周知する。</u> ② <u>小中学校での相互の授業参観や 研究授業の公開、中学校からの乗 り入れ授業等の積極的な交流を実 施する。</u> ③ <u>各分科会や学校一人配置職員の 分科会を通して、地域学校園内の 相互支援体制を充実する。</u>	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地 域 と 連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 保護者による学習支援ボラン ティアや読み聞かせ、安全ボラン ティア等の地域教育力を積極的に生 かした体験型学習の充実に努め る。 ② <u>横川地域学校園の地域人材等に ついて、交流連携分科会におい て、情報の共有化を図り、活用に 努める。</u> ③ <u>学校が地域や企業等の協力を得 て、特色ある教育活動を行ってい ることについて、児童への周知を 図る。</u>	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 毎月の安全点検や定期的な教 材・備品等の整理整頓により、危 険箇所や不備について迅速な改善 に努める。 ② 危機管理マニュアルの整備や地 域防災会との連携協力を行うとと もに、校内では避難訓練や引渡し 訓練等を通して、不測の事態への 備えを万全にする。校内で行った 訓練などについてはホームページ に掲載し、本校での活動を周知し ていく。 ③ <u>駐車場利用や周辺道路への駐車 禁止等に関して、メール配信や各種 たよりなどで保護者に周知し、理解 や協力を得る。</u>	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業の中で実物投影機、デジ タル教科書、一人一端末等 ICT 機器 を有効活用し、学習活動の充実に 図る。 ② 情報教育主任を中心にした校内 情報教育研修や活用実践の共有化 により教員の ICT 活用能力の向上 を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。 ② 地域協議会作成「挨拶タスキ」を有効活用し、横川地域学校園、児童会によるあいさつ運動を実施したり、職員自ら明るく元気なあいさつを心掛けたりすることで、あいさつのよさを伝えていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員で指導内容を明確に把握し、基本的な行動様式の指導を徹底していくことで、習慣化を図る。 ・生活目標（短期的な具体目標）を設定し、時間を守ること、言葉遣いや廊下歩行について指導の重点化を図る。 ・児童会を中心とし、児童主体の活動を行うことで、規範意識の醸成を図る。 ・道徳科の授業や学級活動を中心として、児童の規範意識、思いやりの心の育成に努める。 ② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u>	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 児童は、児童主体の活動やボランティア精神の涵養を図る勤労体験活動に主体的に取り組んでいる。 働き星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 縦割り班清掃、クリーン活動と勤労タイムを一本化して児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。 ② 米作り体験や教材園などの栽培活動を計画的・継続的に実施する。	
	B4 児童は、友達と一緒に学ぶことにより、自分の考えが変わったり、新しい考えに気付いたりするなど学びを深めている。 学び星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 80%以上 ⇒教職員の肯定的割合 80%以上	① 多様な考え方に触れ、互いのよさをいかしながら協働的に課題解決に取り組めるような学び合いの場を工夫する。 ② 自分の考えを表現したり友達に考えを説明したりして、コミュニケーション力を伸ばすための学習活動を行う。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。